

【目的】近年、遠位橈骨動脈アプローチが従来の橈骨動脈アプローチより低侵襲な手法として行われるようになってきた。遠位橈骨動脈アプローチは標的血管が細いことから、低侵襲な手技である反面、穿刺に難渋することが多い。また、従来の橈骨動脈アプローチにおいても、穿刺に成功したにもかかわらず、ガイドワイヤーやカテーテルが挿入困難となるケースを経験することがあった。そこで我々は、心臓 CT で用いた造影剤を有効活用し、アクセスサイトの評価を目的として心臓 CT-橈骨動脈同時撮影を行った。【方法】テストインジェクション法を用い、モニタリングを上行大動脈と橈骨動脈に設定することで、1度の Test Injection にて 2 箇所 of TEC を取得する。得られた TEC を一つのタイムラインに並べ、心臓 CT 撮影後、連続して橈骨動脈 3DCTA を撮影する。橈骨動脈撮影のために造影剤の増量は一切行わない。【結果】得られた橈骨同動脈 3DCTA より、様々な橈骨動脈 Variation が確認された。【結論】心臓 CT で用いた造影剤を有効活用することで橈骨動脈 3DCTA の同時撮影は可能であった。橈骨動脈 3DCTA で得られた画像情報は、穿刺部 Navigation やアプローチ部位の決定因子として十分な情報を持っていることがわかった。実際のカテーテルインターベンションにおいても、Operator の手技の変更にもつながり、結果としてより安全な手技へ導くことに成功した。